

2020年2月4日

漏水

緊急調査

## スケルカ緊急調査で和歌山市内の漏水箇所を特定し 早期補修と道路の安全確保に貢献

- 1月8日 国道24号の花山交差点下の水路内に水道水が流入し、漏水が判明 ※1
- 16日 和歌山市は、周辺3万5千世帯（市内1/5）を19～22日断水し、補修工事予定を発表
- 18日 和歌山河川国道事務所および和歌山市からスケルカによる緊急調査の要請直ちに交差点周辺の緊急調査を開始
- 19日 漏水（空洞）箇所を特定し、開削して漏水が確認され補修を開始  
～（国道24号花山交差点の該当車線が直ちに通行止めされ、安全を確保）
- 23日 交通開放している車線の安全確認のため、継続的に道路下をモニタリング ※2
- 24日 花山交差点の舗装復旧が完了し、15時に全線を交通開放 ※3



※2 和歌山河川国道事務所ツイッターより  
スケルカによるモニタリング調査の様子

国土交通省 近畿地方整備局 Press release  
 Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism, Kinki Regional Development Bureau

令和2年1月23日17時20分  
資料配布 近畿地方整備局 和歌山河川国道事務所  
(和歌山市 同時発表)

**国道24号 和歌山市鳴神地先 花山交差点付近（水道管修繕工事）  
通行規制解除（予定）のお知らせ**

○和歌山市が実施している水道管修繕工事に伴う道路の復旧工事により、現在、国道24号花山交差点付近で上り車線が2車線通行及び下り車線が1車線通行となっています。  
 ○現在、規制内の2車線について、空洞調査による安全確認を進めており、その後、天候の条件※が整い次第、舗装の復旧を行います。  
 ○通行規制の解除は、明日1月24日（金）15時00分を予定しております。  
 ※アスファルト舗装の品質確保のため、降雨、降雪時等は、工事が困難となり解除日が変更となります。

通行規制解除の予定箇所は下記のとおりです。

記

箇所： 国道24号 花山交差点付近（和歌山県和歌山市鳴神地先）  
 規制内容： **通行規制解除（予定）**  
 解除予定日： 令和2年1月24日（金）15時00分から

※通行規制時は、規制看板やガードマンの誘導に従い、安全走行を心がけてください。  
 規制期間中はご不便をおかけしますが、ご理解とご協力をお願いいたします。

<取扱い> \_\_\_\_\_

<配布場所> 和歌山県政記者クラブ、和歌山県政放送記者クラブ  
 和歌山県地方新聞記者クラブ

【国道24号の道路情報に関する問合せ先】  
 国土交通省 近畿地方整備局 和歌山河川国道事務所 TEL 073-424-2471（代表）  
 副所長 小野 武

【水道漏水及び漏水修繕工事に関する問合せ先】  
 和歌山市 企業局 水道工務部 維持管理課・水道企画課・管理整備課  
 TEL 073-435-1303、073-435-1304

※3 和歌山河川国道事務所 交通規制解除（予定）のプレスリリース

# 和歌山断水、一転中止

漏水による道路陥没などの危険があるとして、水道管の修繕工事に伴い、和歌山市が19日夜から3日間、市内全域の5分の1にあたる約3万5000世帯(約8万人)を対象とする断水を計画した。ところが、掘削してみると、漏水箇所は基幹部分ではなく枝分かれた水道管で、断水せずに修繕を完了。市は「掘削してみないとわからなかった」とするが、市民からは「水が濁った」などの苦情が殺到し、市民生活にも影響が出た。【後藤奈緒、最上聡、鈴木健太】

漏水は8日、国道24号花山交差点(同市鳴神)付近で発生。市は「道路陥没の恐れがあり、速やかに断水による工事が必要」とし、基幹の水道管(直径約80センチ)からの漏水も想定、広域を断水対象とし、16日に公表した。

19日夜から掘削したところ、破損は枝分かれした水道管(同約15センチ)と判明。老朽化が原因とみられ、断水せずに修繕を完了し、20日午前5時に防災無線などで市民に伝えた。

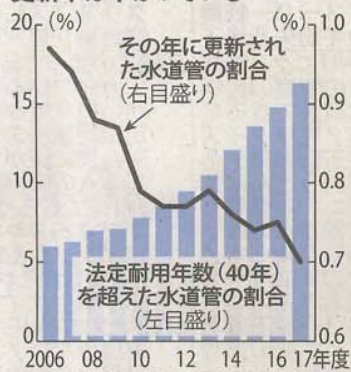
最悪の事態を免れたが、市民生活には混乱が生じた。市によると、「濁り水」は多くの人々が水をためようとしたため水道管の水圧が下がり、水流が変化して、沈殿していた砂やさびが混ざり、濁った水が出たとみられる。市民からの苦情は、19日午後7時〜翌20日午前0



水道工事を伝えるJR和歌山駅の電光掲示板 和歌山市で20日午前

# 老朽化進む 水道管

水道管は老朽化が進む一方、更新率は下がっている



日本の水道事業は、高度成長期に急速に整備された。法定耐用年数は40年で、それを超過した水道管の割合(経年化率)は、ここ10年で2倍以上に上昇。2017年度末では総延長71・2万キロの16・3%に上る。漏水60年代を中心とした

# 事業収益悪化 更新困難

和歌山市は同年度の経年化率が県全体と同じ16・1%で、老朽化が際立つわけではない。一方、更新率は低下傾向で、17年度は0・7%。このペースでは全て更新するのに約140年かかる計算になる。漏水・破損事故は年間2万件を超え、震度6強程度の揺れに耐えられる割合を示す「耐震適合率」も4割に満たないため、災害時に断水が長期化するリスクが増している。更新が進まない背景にあるのが水道事業の減収だ。全国の1日当

午前だけの授業として、透析患者を受け入れている向陽病院(同市津養)は市から「水質検査が終わるまで水道の元栓は開けないようほしい」と話した。

長野や大阪でも過去にトラブル

老朽化した水道管のトラブルは全国で相次いでいる。長野市では2018年11月、地下の水道管が破裂し、約4800戸で赤水が出るなどの影響が出た。大阪府港区でも同月、大阪府道の地下で水道管が破裂し、道路が約1センチ陥没。周辺が冠水し、約40戸が断水となった。

体が施設を保有しつつ運営権を民間に売却する「コンセッション方式」の導入も可能になり、宮城県が条例を作

向山敦夫・大阪市立大教授(会計学)は「水道事業は老朽化対策と災害や耐震への投資が必要とされ、一方で水道料金の問題がある。バランスを取りつつ中長期的な経営計画が求められる。市民の理解を得るためのコミュニケーションが重要だ」と話す。【矢澤秀範】

都道府県別の法定耐用年数を超過した水道管の割合(2017年度末、%)

北海道	17.0
青森県	15.9
岩手県	15.9
宮城県	19.3
秋田県	10.0
山形県	12.5
福島県	9.2
茨城県	12.2
栃木県	12.9
群馬県	20.3
埼玉県	14.2
千葉県	24.1
東京都	13.1
神奈川県	20.7
新潟県	18.4
富山県	16.2
石川県	10.7
福井県	10.8
岐阜県	12.9
静岡県	17.9
愛知県	18.9
三重県	9.5
滋賀県	19.9
京都府	30.5
大阪府	18.9
兵庫県	21.1
奈良県	16.1
和歌山県	14.3
徳島県	15.2
香川県	17.8
愛媛県	19.0
高知県	19.7
福岡県	16.3
佐賀県	22.3
長門県	13.9
熊本県	13.8
大分県	19.3
宮崎県	12.4
鹿児島県	11.2
沖縄県	13.0
国	15.8
平均	16.0
和歌山	8.7
全国	16.3

※水道統計より